

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階 / 2ユニット)

事業所番号	2791400076		
法人名	医療法人神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカールおおまだに		
所在地	大阪府箕面市粟生間谷西3-5-7		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームならではのできることを求め、個々のケアに重点を置いて取り組んでいます。計画作成担当者、リーダー、居室担当を中心にその方より良い生活ペース、活気ある、楽しみのある毎日が送れるようにケアに当たっています。また月二回の往診、高齢者には特に重要な歯科の往診も対応させていただき、介護、医療との連携体制は充実しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、箕面市および近隣にて幅広く介護事業を展開する医療法人神明会を運営母体とし、開設13年目を迎えている。事業所は、緑豊かな山の手に残るのどかな田園地帯に住宅・マンションやスーパーなどが点在する環境にあり、瀟洒な3階建ての2・3階に2ユニット(18室)のほか、有料老人ホーム(6室)と1階にデイサービスセンター(定員35名)を併設し、相互に有機的な連携を図っている。事業所名ロ・スカールは、イタリア語の「寄港地」を意味し、人々や情報がここに集まり、高齢者の心と体を癒す介護のキーステーション(寄港地)となる願いが込められている。事業所では、より一層グループホームらしくを目指し、新年度の4月から週2回の昼・夕食を、職員の手で食材を調理し利用者に喜んでもらおうと、職員一同が介護の質の向上に取り組んでいる姿が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「愛・奉仕・共感」をもとに施設での事業所理念「共に寄り添いながら楽しく暮らせるよう、その人が持っている能力を活かしてもらえらる支援と、個々の思いを大切にしたケアを行います」を掲げておりますが、共有できているとは言えません。	法人(医療法人神明会)の理念と、事業所の理念の双方を各フロア入口や居間に掲示し、職員への周知に努めている。管理者(ホーム長)は、事業所の理念の周知徹底のため、まずはリーダー職員からリモートによる研修の実施を予定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への外出、並びに地域ケア会議がコロナ禍によって実施、開催されておられません。	かつては、ボランティア活動(音楽レクレーション・生け花など)の受け入れ、事業所文化祭には中学生のブラスバンド演奏など、地域交流が多く見られたが、コロナ禍でほぼ全てのボランティアや行事は中止となっている(生け花は、花だけ届き事業所内で自主活動中)。自治会は、誘いもなく、また特段の必要性も感じていないため未加入で、交流は行っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献を兼ね年に一度の文化祭での交流を計画しておりましたが、コロナ禍により実施できていません。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催をしておりましたが、コロナ禍により、議事録での報告を実施しております。	コロナ禍のため、令和2年3月以降は書面による開催となっている。従来の会議には、家族代表・市広域福祉課員(複数)・地域包括支援センター職員や時々「びわの会」(箕面認知症家族会)の出席があったが、地域代表や知見者の出席はなかった。議事録は、関係者への配付のほか家族へも郵送している。	コロナ禍が収束して会議再開の際には、会議への外部参加者を増やす検討を望む。参加の候補者としては、地域の民生委員、デイサービスセンターの看護師、調剤薬局の薬剤師や同業のグループホーム管理者などが考えられる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	箕面市広域福祉課、介護認定部署へ電話にて報告相談をさせて頂いております。	現在は、主に市広域福祉課と介護認定担当部署に報告・連絡・相談を行っている。コロナ禍以前は、地域包括センターを含め、運営推進会議への出席を通して、各種アドバイスや情報を得て、事業所の運営に反映させていた。なお、市の事業所連絡会が再開された際には参加し、同業者との交流や情報入手を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の実施にて身体拘束に対する意識付けを実施しています。現在身体拘束の実施はありません。行わないケアの実践に努めています。現在身体拘束の実例はありません。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、3ヶ月毎に委員会を開催し、入職時研修と、研修計画に沿った職員研修を開催している。利用者の安全確保のため、各フロアーをロックし、玄関を施錠している。別の機会に接遇の研修を実施して、スピーチロックにならない呼びかけに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の開催にて職員としての意識、責務を説明し、未然に高齢者虐待を防ぐ取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し対応できるように努めている。又その内容を他職員と共有できるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず重要事項説明書にて説明を実施し、同意をいただいたうえで、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など家族から意見を聞き取り、管理者や職員は運営に活かすよう努めている。	従来は、面会や運営推進会議の折に家族の意見・要望を聴取していたが、コロナ禍で面会が制限されている現況では、主として電話連絡の折に傾聴するよう努めている。利用者のスナップ写真などを添えた毎月の便りを話題に、意見・要望が聞けることもある。家族アンケートにも、面会ができないことの嘆きが多く寄せられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回職員との面談の機会を設けている。また、適宜必要時に面談を実施している。運営に関しての意見も求め、活かせるように努めている。	ホーム長は、介護現場で職員と接する機会も多く、職員ヒアリングでもコミュニケーションは良好なことが窺えた。自己評価に基づくホーム長との面談が年2回あり、職員から相談などを聞く良い機会となっている。職員からの提案で、4月から週2回の昼食を職員が手作りする事で、利用者に喜んでもらうことにした実例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の自己評価を実施し上司による評価の実施と面談の機会を使い向上出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加や施設内研修の実施にて職員の質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市の事業所連絡会への参加がコロナウイルスの影響にて開催されておりません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は利用者の不安や要望に耳を傾け安心してお過ごしいただける様、関係づくりに取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、面談の機会での聴取を行い一緒に課題に取り組めるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごと等の課題をお聞きし、当施設でご利用頂くべき内容かの検討と適切な提案を心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で行うことを、出来るだけ本人の意向に寄り添い出来るように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではありますが、リモート面会、ガラス越しの面会を実施し日々のご様子をLINE等のツールにて行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが、ご家族様への声掛けを実施しています。	コロナ禍の現在、法人による感染防止のルールに則り、通院を除いて散歩や外出が原則禁止されているので、数少なくなっている馴染みの人や場との関係がほぼ途切れている。他のユニット、デイサービスセンターやボランティアとの交流も中断されており、新しい馴染みの関係も築けなくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でコミュニケーションが取れるよう職員が間に入り、食席や余暇の時間を過ごせるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護支援専門員との連携も継続しているため、必要に応じ相談、支援は継続して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には本人の意向を確認実施。困難な場合は家族と相談しながら、本人、家族が望む生活の実現に努めています。	入居時に、ホーム長と看護師が自宅などを訪問し、本人や家族と面談のうえ本人の希望・思い・意向・生活歴や心身の状況を把握し記録している。また、居宅ケアマネジャーなどの意見が得られれば参考にしている。入居後は、居室担当職員が利用者に寄り添い、より深い思いや希望を汲み取って記録し、職員全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前に本人の生活歴、趣味など現在に至るまでの経緯などの情報を聞き取っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣を出来るだけ継続できるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種連携にて家族、主治医、看護師等とサービスに関しての意見を求めプランに反映させる	介護計画の作成に当たっては、家族や居室担当などの介護職員、ホーム長・医師・看護師の意見やアイデアを総合し、利用者がより良く暮らせるよう、計画作成担当者が中心になり介護計画書を作成している。カンファレンス・モニタリングを繰り返し、介護計画書を3ヶ月毎に見直し、家族の同意を取り付けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子をケアファイルに記録し居室担当者と上席者を中心に他職員と意見交換などを行いプラン見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍とはいえできるだけ、敷地内の散歩が出来るような取り組みや、直接面会出来ないがガラス越しでの面会を実施させて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が十分にできていないが、出来る限り安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望に沿えるよう支援し往診医と連携している。	利用者・家族の同意を得て、全利用者が法人の協力医療機関をかかりつけ医とし、内科は月2回、歯科・歯科衛生士は週1回または月2回もしくは随時往診を受けている。整形外科・産婦人科は家族が同行して受診し、文書または口頭で利用者の状況を知らせ、口頭で結果を報告してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師と連携を取り、利用者個々に合わせた適切な看護や医療が提供できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い病状の確認。退院時にはカンファレンスを行っていただくよう関係づくりに努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせ、今後の支援の方向性を家族、医師、看護師、介護、計画作成担当者と話し合いチームとしてケアに取り組んでおります。	入居時に、「重度化した場合における(看取り)指針」を利用者・家族に説明し、同意を得ている。「ターミナルケアマニュアル」を作成し、利用者が重度化した時は、事業所の基本方針、具体的な支援内容、医療連携体制を説明し、家族の意向を汲み取りながらチームでケアしている。開設以来十数名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は心肺蘇生などの救急対応の研修を実地しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の同法人との連携、仕組みの構築をしております。また災害マニュアルの周知をしております。	「災害マニュアル」を作成し、直近では昨年6月に、併設のデイサービスセンター・有料老人ホームと合同で、昼間を想定した自主の火災避難訓練を実施した。災害時用の備蓄品は、車で10分程の法人本部に用意している。併設施設の職員を含めて近くに住む20名程が、緊急時にはすぐに駆け付けられる。	今後、消防署の立ち合いを要請し、夜間も想定して年2回の避難訓練を励行すること、地震対応のミニ訓練を実施すること、施設内に災害時用の水・食料など3日分以上を備蓄すること、職員の緊急連絡網を整備して各人の役割を周知徹底することなど、万全の災害対策を講ずることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を確保するために、研修を実施。又接遇の研修も実施している。	「倫理規定」「プライバシー保護マニュアル」を作成し、人権・接遇マナー・個人情報保護の各研修を実施して、利用者を尊重したケアに努めている。排泄時はトイレのドアを閉めてできるだけ外で待つ、入浴時の同性介助の希望にも応じる、入室時は声かけ・ノックする、などに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護側の都合とならないように、利用者の思いを聞き取る、くみ取れるよう意識付けしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の習慣をくみ取りながら、その人らしい生活が出来るように、個別ケアに取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みのものご用意して頂けるよう依頼をかけたたり、日々の中で好みの服を着ていただけるように努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あと片付けをご一緒に頂いたり、食事のレクレーションにてケーキを作って頂いたり食事を楽しんでいただけるよう支援している。	管理栄養士が献立し、朝食はクックチル食を利用し、昼食・夕食は近くの系列施設で調理専門職員が作って搬入し、事業所で炊いたご飯と共に盛り付けて提供している。月2回手作りおやつ(ケーキ・たこ焼き・ホットケーキなど)を楽しんでいる。4月から週2回、業者の食材を用いて、事業所で職員が交代して調理する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、多職種連携を図り実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者に合わせたケアを行い週一回訪問歯科からのアドバイスや利用者のケアを実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせてながら、出来るだけトイレに行ける環境、体制を構築しております。	おむつ使用者は3名いるが、約1/3の布パンツの人と他のリハビリパンツの人は、適時に誘導してトイレで排泄するよう支援している。パッド交換時は同性が介助し、できるだけ陰部洗浄するようにしている。おむつ・パッドの経費を削減するため、使用頻度を減らしたり、適切な大きさのパッドを使用するよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師ともに常に連携を取り、必要に応じて薬の調整を実施しております。散歩に出かけたり便秘解消に向けた運動に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが午後中心の入浴となっております。その中で本人の意向に合わせご案内させて頂いております。	週2回午後の入浴を基本に、1人ずつ湯替えをして清潔を保っている。入浴を嫌がる利用者1名には、気の合う職員が声かけて入浴してもらい、重度の人2名は2人で介助し、シャワー浴と足浴を行う人もいます。希望に沿って、女性対女性の入浴介助にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるように習慣に合わせて支援させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、家族様との連携を図り看護師のアドバイスを受けながら実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として水やり洗濯物のたたみなど生活の場の中に活躍の場を提供し支援しています。また好みの飲み物を提供しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍である為敷地外への外出は禁止させて頂いております。ご希望に合わせて敷地内の散歩は実施しております。	コロナ禍の中でも、利用者は週2回程は敷地内を散歩し、玄関前のベンチで外気にも触れている。家族と受診に出かける人もいる。閉塞感・運動不足をなくすために足上げ運動をしたり、室内のプランターを増やして気晴らししてもらっている。今春は、何とか工夫して、車で近くに花見に出かける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては事業所管理としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用はご自身で管理して頂き、事業所の支援は実施していないが、使用できているかの確認は実施しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔かつ、光、音、温度、湿度で適切となるよう安心して生活できるように努めております。	居間兼食堂の壁面や天井には、多くの手作りの桜花や提灯などが飾られ、居ながらにして花見が楽しめる。正月の俳句大会で作った利用者の作品や書道作品が貼られ、3階には歌詞が所狭しと掲示され、皆で合唱している姿を彷彿させる。時間によって流す音楽を替え、穏やかな雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に居場所が確保できるように配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたもの、なじみの物をご用意して頂き安心して心地よく過ごせるように配慮しております。	居室入口には、事業所名(ロ・スカーロ=寄港地)に因んだ日本の港名を掲げている。室内にはベッド・エアコン・クローゼット・洗面台・カーテンを設置し、終日換気扇を作動している。利用者は、タンス・鏡台・テレビ・小物・人形などを思い思いに持ち込み、生け花レクレーションでの作品も置いて、居心地良くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に合わせてできる限り残存機能を活かしながら必要な支援を提供している。		